## 年間第25主日(A 年)福音書の黙想

年間第25主日(A年)の福音朗読ではマタイによる福音書20章1-16節が読まれます。朗読箇所に関連する聖ホセマリアの言葉を紹介します(説教より抜粋)。

「天の国は、ぶどう園の働き人を雇うために、朝早くから出かける主人のようである」 (m)。これはすでによくご存じの一節でしょう。主人は何度か広場に出て、働き人と契約を結びます。ある人たちは夜明けに呼ばれ、またある人は日暮れ近くに招かれました。

全員が一デナリオンずつ受け取ります。「ここで言う〈デナリオン〉とは約束の俸給、つまり神の似姿のことである。デナリオン貨幣には王の像が刻んであるのだ」[2]。これこそ、私たち一人ひとりの事情を考えてお呼びになる神の慈しみと言える

でしょう。神は「すべての人が救われるよう」はお望みです。私たちは信者の家庭に生まれ、信仰のうけまれ、信仰のけまれ、ででを受けまれ、です。それならでも現実です。それないものが日暮れ近くであれたのがけに応えるしてもながら、時間をもてのがらいるあの大勢のはよいものでしょうか。

かも知れない。あなたは鎮座を決め こみ動こうともせず、まるで実をな さぬ木のようである。周囲や傍にい る人々、職場や家庭で共に毎日を過 ごす人々に、幸せを伝え広めなけれ ばならないのに、手をこまねいてい るのではないだろうか。

たぶん、あなたは言うかもしれな い。どうして私が努力しなければな らないのか。「キリストの愛がわた したちを駆り立てる | 畑からである と、聖パウロが答えてくれます。愛 徳の領域を広めるために一生は短す ぎるからです。広い心で実行する決 心を立てて欲しいので、倦まず弛ま ず次のように繰り返してきました。 「互いに愛し合うならば、それに よってあなたがたがわたしの弟子で あることを、皆が知るようになる| 151。ほかでもないこの愛徳をみて、 人々は私たちがキリスト者であるこ とを認めるでしょう。どのような活

動に従事するにしても、信者の活動の出発点は愛徳ですから。

キリストは純潔この上ない方でしたが、清い生活こそ弟子と認められるためのしるしであるとは仰せになりませんでした。主は節制に徹したお方で、枕するところもなくぼ何日も祈りと断食でで過ごされましたが、

「あなたたちが大食漢や大酒飲みでなければ、人々はあなたたちをわたしの弟子であると認めるであろう」とも、仰せになりませんでした。

いつになっても同じことが起こります。過去においてもキリストの清らかな生活は、今もよく見られるように、腐敗した当時の社会に大きな明手打ちを食わせました。宴会に明け暮れる人々、食っては吐き、吐いては食う輩、「神は自分の腹である」のはないう、サウロ(パウロ)の言葉を自ら地で行くがごとき人々に、キ

リストの節制は鞭打ちのような衝撃 を与えました。

私事にかまけて一生を過ごす当時の 人々にとって、主の謙遜はもう一つ の衝撃となりました。私がローマに 住みついてから何度も繰り返したの で、もうお聞きになったことがある かもしれません。今日では廃墟と なったあの凱旋門の下を、自惚れと 傲慢と思い上がりで膨れあがった勝 利者や皇帝や将軍たちが行進したも のです。壮大なアーチを通り抜ける ときに威厳に満ちた額をぶつけまい と少し頭を下げて。ところで謙遜そ のものであるキリストは、「あなた たちが謙遜で慎み深いなら、わたし の弟子であると認められるであろ う とも、おっしゃらなかったので す。

注目して欲しいことがあります。それは、二十世紀を経た今も、先生である主の掟は新しい掟としての力を

維持しているのみならず、本当に神 の子であることを示す紹介状の役割 を果たすという事実です。司祭生活 を通して、私は実に何度も繰り返し 説いてきました。遺憾ながらこの< 新しい>掟の実行に努力を傾ける人 は皆無に等しい。従って、この掟は 相変わらずく新しい>掟です。嘆か わしい限りですが、これが現実で す。救い主の言葉には、紛う方なき 明白さがあります。「互いに愛し合 うならば、それによってあなたがた がわたしの弟子であることを、皆が 知るようになる | 。だからこそ、こ の主の言葉を絶えず想い起こす必要 を感じるのです。聖パウロは言葉を 続けています。「互いに重荷を担い なさい。そのようにしてこそ、キリ ストの律法を全うすることになるの ですして、時間は余っていると自分 を偽って時間を浪費するあなた、け れども、仕事に追われて困り果てる 兄弟や友人が大勢いるのではないで しょうか。礼を失せぬよう優しく微 笑みながら、相手が気づかぬよう、 さり気なく手を貸してあげましょ う。相手が感謝する必要を感じない ほど、あなたの愛徳が慎み深く、さ り気なく、人目を引かぬものである ように。

(ホセマリア・エスクリバー『神の 朋友』42-44)

- [1] マタイ20・1
- [2] 聖ヒエロニムス『マタイ福音書 註解』3,20 (PL 26,147)
- [3] ーテモテ2・4
- [4] ニコリント5・14
- [5] ヨハネ13・35
- [6] マタイ8・20参照
- [7] マタイ4・2参照
- [8] フィリピ3・19
- [9] ガラテヤ6・2
- [10] マタイ20・12

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-sekkyo-matai-20-1-16/(2025/12/11)